

OCCHIS ■設立20周年記念講演

検査データどう活かす

安全・健康への活用と課題



【大阪】NPO法人(特定非営利活動法人)ヘルスケアネットワーク(OCCHIS)

OCCHIS、武田裕理事長、大阪大学名誉教授)は8日、大阪市で「運輸業界のビッグデータをどう活かす?」安全・健康への多様な活用と課題」をテーマにセミナーを開催した。法人設立20周年の記念となる今回は、法人の歩みや蓄積した検査データの傾向や活用方法に焦点を合わせた。

「課題解決に向けた新たな学びがあればうれしい」と武田理事長

武田理事長は「運送業界を取り巻く環境は激変している。様々な課題がある中で、ドライバーの安心安全についてもクローズアップ

されている。課題解決に向けた新たな学びがあればうれしい」とあいさつ。

第一部で、作本貞子副理事長が、OCCHISの20年間の歩みについて睡眠時無呼吸症候群(SAS)と運輸ヘルスケアナビシステムの実績と課題を中心に講演。また、国土交通省物流

・自動車局安全政策課の永井啓文課長が「健康起因による事故防止」、全ト協の交通・環境部の大西政弘調査役は「トラック運送業界の安全と健康を指して」をテーマに、それぞれ解説した。

第二部は、OCCHISの保健師によるSASのスクリーニング検査結果の集計と運輸ヘルスケアナビシステムの健康診断データの分析結果を報告。結果から分かる生活習慣の傾向や現状の課題について説明した。更に、実際に両検査を活用している平和貨物運送(平田美智代社長、茨城県下妻

市)のインタビューVTRが流された。

第三部では、「蓄積したビッグデータの安全・健康に向けての活用と課題」について、武田、作本の両氏がそれぞれ事務量の効率化、情報の一元化などを取り上げ、今後の方向性を示した。(中川美咲)